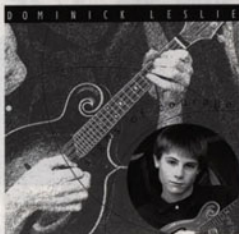


ドミニク・レスリー

21世紀の若者ブルーグラス列伝⑬



デビューCD「signs of courage」

近年のブルーグラスやオールドタイム界、若者の活躍を通り越して、子供たちのとんでもない才能があちこちで花開いている。IBMA ワールド・オブ・ブルーグラスに参加して毎年、そんな子供たちの成長に、ただただあきれればかりだ。

2005年のIBMA アフターアワー・ショウケースで、ジョン・コワン・バンドのノーム・ピクルニー(bj)とシャド・コップ(f)のほか、地元コロラドの若手らと深夜まですばらしいマンドリンを聴かせた15歳のドミニク・レスリーを、コロラドの地方紙「キャニオン・コリアー」より、宇野誠之さんに要約していただいで紹介しよう。

ドミニク・レスリー

2004年7月コロラド州ライアンズ近郊、ロッキングラスという名で知られるロッキン・マウンテン・ブルーグラス・フェスティバルの歴史に、新たな1ページが書き加えられた。主人公の名はドミニク・レスリー、5フィートを僅かに越えるスレンダーな14歳の少年が、12人の才能豊かなプレイヤーたちによって争われたマンドリン・コンペティションで優勝し、サム・ブッシュ・モデルのギブソン・マンドリンを獲得したのである。

ドミニク・レスリーは1990年生まれ、父オウエンに2歳の頃にウクレレを与えられたのが最初の楽器経験だったという。オウエンは70年代初頭、チャタスガのテネシー大学在学中にブルーグラスに魅せられた。時あたかも、ニッティ・グリッティ・ダート・バンドのあの名作をきっかけとして、若者たち

にブルーグラスが再び受け入れられようとしていた時代、オウエンはセミ・プロのバンジョー・プレイヤーとして各地で演奏してきた。経営管理の学位を取得したのちコロラドに移り結婚、88年にデンヴァーのローカル・バンド、ハイ・ストリートに参加し、89年テルライド・フェスのバンド・コンテストで2位になった。…このとき優勝したのは、ディキシシー・チックスという名前の女性バンドであった。

両親に連れられて各地のブルーグラス・フェスに行くうちにギターをマスターしたドミニク少年は、11歳でマーティンのHD-28を父の援助で購入し、ギターにのめりこんでいったが、この年代の少年たちの例にもれず、エレキ・ギター、ロックへの興味が募ってマーク・ノッブラーやエリック・クラプトン、レッド・ツェッペリンなどの曲を弾きまくっていったらしい。その後ドミニクはフィドラーとしても頭角をあらわし、オウエンがマンドリンを購入してからは独学でマンドリンもマスターしていった。彼は耳で音楽を学び、ほかのミュージシャンの演奏を聴いてその曲、パッセージを何時間もかけて自分のものにしていったのである。

ハイ・ストリートのメンバーとしてコロラド一円 of フェスに参加してきたレスリー・ファミリーは、親密なコロラド・ブルーグラス・コミュニティの輪に加わり、ドミニクも7歳頃から各地のフェスで開かれる子供向けのブルーグラス・アカデミーに参加してきた。2002年、そうしたアカデミーのひとつでドミニクは当時19才のクリス・シーリと出会った。ドミニクはクリスが自分を手助けしてくれたことに感激し、クリスもまた、ドミニクの天性の才能と音楽への熱意に動かされた。クリスがインスパイアされたドミニクはマンドリンを終生の楽器と思い定め、再び父と力を合わせてチェコのハンド・メイド・マンドリン、クリスホットを手に入れた。

才能豊かな子供たちを育てたレスリー一家はファミリー・バンド、60MPHを結成した。ドミニクがマンドリンとリード・ヴォーカル、才能あるヴァイオリニストである妹ジーナ(12歳)がフィドル、父オウエンがギター、そして一家の友人ベス・クックがバ

ースという編成で、コロラド各地で演奏し経験を積んできた。2003年、ドミニクは初めてマンドリン曲を2曲作り、コロラドのミッドル・スクール作曲コンテストで1位となった。各地のマンドリン・コンペティションにも出場したが、こちらは1位というわけにはいかなかった。そして2004年のロッキングラス、ドミニクは4日間にわたってアカデミーに参加、演奏テクニック、さまざまなスタイルへの挑戦そして作曲理論を学んだのちマンドリン・コンペに出場、決勝ではビル・モンローの“Big Mon”そしてヒーロー、クリス・シーリーの“Ah, Spring”を、父オウエンのリズム・ギターをバックに演奏して、見事優勝したのである。

ロッキングラスからしばらくして、カリフォルニア州サンタ・クルーズでのマンドリン・シンポジウムで何時間もの間、ドミニクは友人であり導師でもあるクリス・シーリーと過ごし、クリスのソロ・ツアーに加わっていた伝説のプリティッシュ・ロック・バンド、レッド・ツェッペリンのベージストで実は知られざるマンドリンの名手でもあるジョン・ポール・ジョーンズとも知り合う機会を得た。ジョン・ポールはドミニクのスキルに感銘を受け、個人的にドミニクから学ぶことを望んだという。

ミュージシャンの道へ進むことに思いを定めたドミニクには輝かしいスタートとなったが、プロの厳しさを知る両親は、他にもやるべきことがあることをドミニクに教え、彼はエヴァーグリーン・ハイスクールのサッカー・チームで、マンドリン・プレイヤーにとっては指を痛める危険性のあるゴールキーパーとして活躍、数学にも秀でたところを示しており、将来、ニュー・ヨークのジュリアード音楽院か、ナッシュヴィルのヴァンダービルト大学のブレア音楽学院で学びたいと考えている。

2005年には、マール・フェスのマンドリン・コンテストで2位入賞、そしてソロ・アルバム『Signs of Courage』を発表、ノーム・ピクルニー(bj)、ステュアート・ダンカン(f)、ジョー・クレイヴン(Perc)、ジョン・リベア(bs,gs)らトップ・ミュージシャンたち、そして地元コロラドの仲間たちのサポートで、その卓越したマンドリン・プレイと作曲の才能を知らしめたのである。

ドミニク・レスリー、15歳。クリス・シーリー、マイク・マーシャル、デヴィッド・グリスマン、マイク・コンプトン、ジョン・ライシムン他、多くのマンドリン・マスターから学び、グリスマン・クイントットやジョン・コーワン・バンド、フランク・ウェイクフィールド、ダロル・アンガーなどと共演



2005年11月、コロラド州ボルダー・シアターにて、デビッド・グリスマン・クイントットにゲスト出演するドミニク。写真：Lisa Siciliano

してきた期待のノック。

ビート・ワニックをして「15歳という年齢でドミニクは、『あの年齢にしては実に素晴らしい』といわせるのではなく、ただただ『実に素晴らしい』のだ」といわしめた少年である。(文責/宇野誠之)

デビュー作『Signs of Courage』

ドミニク・レスリーのデビュー作は、元ナッシュビル・ブルーグラス・バンドのベージストのジョン・リベアのプロデュースで、1曲目に小学生だった2001年の9.11テロ直後に創ったというタイトル曲ほか、ビル・モンローを3曲、“Lonesome Moonlight Waltz”、“Old Ebenezer Scrooge”、“Boston Boy”、そしてケニー・ベイカーの“Ducks on the Millpond”やトラッドの“Kitchen Girls”と“Golden Eagle Hornpipe”といったブルーグラス・マンドリン王道に、ジャンゴ・ラインハルト“Swing 42”、その他オリジナルを5曲の全13曲。ステュアート・ダンカンやノーム・ピクルニーのすばらしさはもちろん、トッド・リビングストンのドロップをはじめ、ジョン・スティックリーとロス・マートインのギター、おそらく地元コロラドの若いジャム仲間だろうが、すばらしい。

クリス・シーリー以降のきわめてデリケートなタッチで、ブルーグラス、ロック、クラシック、ジャズ、シャンソン…、きっと耳に入るすべての音楽にインスパイアされるのだろう、見事な音だ。

つぎつぎと登場する若者ブルーグラス、彼らの多くはまぎれもなく、1970年代にブルーグラスにのめり込んだ当時の若者たちの子供たちだ。1960年代後半から70年代にかけてのカウンターカルチャーで育った若者たちが親となった80年代に生まれた子供たち、彼らは明らかに、それまでアパラチアなどでファミリー・トラディションとして綿々と伝承されて